

まき むく やま
「巻向山」

1) 三諸の みもろ その山並みに やまなみ 子らが手を

巻向山は つぎ 継のよろしも

作者・柿本朝臣人麻呂歌集(巻七―1093)

(解説) 三輪山の山並みに巻向山があるのは、ならば具合が大変よい。

・「三諸」とは「神のいますところ・神を祭るところ」いう語でここでは奈良県桜井市にある「三輪山」を指す。

・三輪山は奈良県北部奈良盆地の南東部に位置し標高467メートルの円錐形の山である。

・「巻向山」は三輪山の北東にあり二峰(標高567mと565m)からなる山である。この歌は三輪・巻向の山並みの美しさを讃えた歌である。

2) 兎らが手を 巻向山は 常にあれど

過ぎにし人に 行き纏まかめやま

(解説) いとしい子ら(愛する妹)の手を巻く巻向山はいつも変わらずあるけれど、なくなってしまうた人のところへ行って、手を巻くことはできはしない。亡くなった妻を偲んでの歌と思われる。

(参考文献)・日本古典文学大系・樋口和也著「万葉集地名総覧」等

(写生地)・奈良盆地の南東部、桜井市にある3〜4世紀の大規模集落等である纏向遺跡まきむくいせきの南端にある箸墓古墳はしかこふん(桜井市箸中はしなが)の西端から正面奥あなしに「巻向山」右に「三輪山」の美しく連なる山並みと山裾に桜井市穴師あなしの集落を描く。(池田杏花)

